

あるいは反抗的な態度をとる。

③ 第3期

- 昼はほとんど寝ている状態で、夕方には起きて食事をする。
- 全く気ままな生活をしている。
- 雑言をあげせたり、激怒したり、物を投げたり、打ってかかったり、無理難題を言ったり、わめき散らしたりして、親を困らせる。
- 日中はほとんど家から外に出ることはない。

3. 登校拒否児の早期発見

登校拒否は、その要因がきわめて複雑にからみあい、形成過程からみても、心理的であって、発見が長引くほど、指導・治療も困難を増してくるし、年齢が高くなるにつれて、治療効果をなかなかあげにくいことがわかっているだけに、早期に

発見し、早期に指導・治療する必要がある。

一般的に、教師は登校拒否で休んでいる子どもを、怠休者と見あやまることが多い。従って、欠席が目立つ子どもが出てきたら、まず、全職員の協力を得て、正しい情報を多く集めるとともに、さらに保護者の協力を求めながら、表1の「長欠児童生徒類型分類チェックリスト」により、傾向性をは握し、チェックリスト項目のどこに○印がついているかをよく確かめ、これによって適切な判断を下したうえで、指導方針をたてる必要がある。

なお、この指数による数値は、いくつ以上が登校拒否で、いくつ以上が怠休であるというような尺度はなく、どちらが多いかによって、その傾向性をは握するものであることを付記しておく。

表1

〈 長欠児童生徒類型分類チェックリスト 〉

学校 学年 組 氏名 (昭和 年 月 日生 男・女)

次にかいてある文章を読んで、当てはまることがあったら、回答欄の番号を○で囲んでください。

	回答欄			
	A	B	C	D
1 友人の中に入っていくのが苦手である。……………	1			
2 おとなしい。……………	2			
3 登校時間前は、ぐずぐずしていて、なかなか起きない。(起きなかった) ……		3		
4 みんなが学校に行っている間に、学校を休んで遊びに行く。……………				4
5 学校に必要なものをよく忘れる。……………			5	
6 学校のきまりや、学級のきまりを守らないことが多い。……………			6	
7 規則やきまりにとらわれる。……………	7			
8 成績にむらがある。……………			8	
9 外ではおとなしいが、家ではわがままである。……………		9		
10 家の物や金を持ち出す。……………				10